

米国式の臨床研修が高い評価

県立中部病院は全国でもトップクラスの人気



病院内で起こった共通する問題を取り上げ全体で討議し、対策を練る全科合同カンファランス



一年次研修医の救命救急センターでの診察

県立中部病院の臨床研修制度

県民の皆さんは、沖縄が我が国で誇るナンバーワンをいくつ知っていますか。

都道府県別平均寿命・女性平均は相変わらずトップです。（沖縄県の男性平均寿命は二十六位です）子供の出生率、かぼちゃ、へちまの生産飛行場の数、海洋深層水の日当たりの取水量、昆布の一人当たり消費量などが全国一です。ちよっと耳の痛いところでは肥満、失業率、肺ガンの発生率も全国一です。

ところで、もう一つ全国一があるのでご紹介しましょう。沖縄県は、医師の臨床研修（新人医師の教育）について全国から注目を浴びています。以前、NHKで中部病院の臨床研修制度のことが放映されていたと思ひ出された方もいらっしゃるでしょう。

ここでは、医療関係者の間で全国一と言われている県立中部病院の卒後臨床研修制度をご紹介します。若い医

師たちの教育がどのようになされるのかを紹介します。

医師卒後臨床研修とは

医学部で六年間の医学教育を受け、医師国家試験を合格すると医師となるのですが、資格を得ただけでは、実際には十分に診察・治療・処置・手術ができません。このような卒業間もない半人前の医師を臨床現場で教育するのが卒後臨床研修です。

戦後間もない一九四六年から、医学部卒業後一年の実地修練の後、医師国家試験に合格して医師になるという卒後臨床研修が始まりました（いわゆるインターン制度です）。しかし、卒業間もない医師を指導する体制が整備されず、また、研修期間の一年間は医師でもなく医学生でもないため身分の保障がなかったため、時間が経つうちに不満が募り、一九六八年にインターン制度は廃止されました。

その後、医学部卒業と同時に医師国家試験を受験し、医師免許を取得後、臨床研修を「任意で二年間」受けるという研修制度に改正されました。その時、厚生省は、診療科を問わない幅広い基本的知識と技術を習得した医師を養成するという目標を掲げたにもかかわらず、大半の医学部卒業生の研修の場は、大学病院に

県立中部病院の臨床研修の歴史

中部病院での臨床研修制度は、一九六七年に開始されました。当時の沖縄は医師不足で、国費自費制度によって医師の卵を本土の大学に送り出していました。医学部を卒業しても、沖縄に戻り住民の医療を担うべき医師の帰還率は四十％にとどまり、医療貧困は改善されませんでした。その原因は、施設が不備であったこと、研修する場所がなかったことでした。

この様な沖縄県の医師不足を解消するため、コザ病院を新築移転し中部病院として整備し、研修制度が始まりました。

研修開始当初から、当時の医療事情を一日も早く改善するため、特定疾患や特定の手術の専門医を育てることよりも、診療科を問わない幅広い基本的知識と技術を習得した医師の育成が行われました。

ハワイ大学との研修事業委託、指導医の海外留学、指導に情熱のあるスタッフの確保、意欲旺盛で優秀な研修医の全国公募により、本土では厚生省が掲げた目標に遠く及ばない研修が続けられていた中で、沖縄では、連綿と国民の望む医師の育成が行われていたのです。

中部病院の研修制度は、二〇〇四

年の研修制度改正のモデルになったともいわれており、ここに医療関係者が「全国一」と称賛される理由があるのです。

臨床研修の実態

臨床研修には、初期研修と後期研修があります。初期研修では前記の通り医師としての基本を学び、その後さらに研修を継続し、各自の希望する専門科領域の力をつけるのが後期研修です。

現在中部病院では、初期二年、後期二～三年の研修が行われています。二〇〇四年よりスタートした新臨床研修プログラムでは、従来の研修診療科（内科・外科・小児科・産婦人科・麻酔科・救命救急科）に精神科、地域医療が加わり、さらに懐の広い医師の育成が行われます。

研修医は全国公募で採用されます。本年度は、三十四名の募集に対して百六十二名の応募がありました。採用試験は、八月の医学生生の夏休み期間中に行われ、筆記、面接、適正試験で判断されます。

従来は、病院側の希望通りの採用が可能でしたが、



採用試験の面接の様子。受験者1名に対し2名の面接官で1時間行う。

集中し続けました。もともと、大学病院は高度に特殊化・専門分化した病院で、日常的な病気を診ることがないため、基本的知識と技能の修得には不都合な場所でした。

最近、研修医のアルバイト先での医療事故、未熟な知識から薬剤の過剰投与、また、研修医の過労死と問題が表面化しました。

このため、研修制度が見直され、二〇〇四年から研修制度は「任意」から「必修」へと大幅に改正されたのです。



この様な個室が院内に40室、院外に36室確保されている。

制度改革に伴い、「マッチングシステム」が施行されています。医学生は自分が希望する研修病院に対して順位をつけ登録し、病院サイドも試験で合格した受験者について採用したい順位を付け登録、医学生と病院の順位が合致したものが採用されるのです。

初期研修は、医師国家試験発表後間もなく始まります。

研修生には、宿舎や常時オープンしている図書館が提供され、生活や勉強修練の環境が整備されています。

研修医は八～九名でグループとなり、内科三カ月、外科三カ月、小児科二カ月、産婦人科二カ月、麻酔

科一カ月、救命救急科二カ月、精神科一カ月、地域医療（離島診療所、保健所、介護施設、訪問診療）一カ月と順繰りローテーションして研修を続けていきます。研修医は、研修科がかわる度に指導医から評価を受け、よりよい研修が受けられるように調整されています。

専攻科での研修は、二年次の後半から始まります。研修を終える年度末には、ハワイ大学や県関係者の見守る中、研修終了式が行われ、研修終了者は希望に胸をふくらませて、沖縄、本土、外国へ飛び立っていくのです。

中部病院の臨床研修の特徴

ではここで、全国の医学生にとって魅力的な中部病院の特徴を紹介いたします。

1 豊富な臨床経験と診療を通じての学習

研修医にとって、経験する症例が少なくても、また、一生に数度しかお目にかかれないような珍しい病気だけを診ていても、実際の診療では役立ちません。

中部病院では大学病院で数年かかっても経験できない症例数を一年で終わってしまうくらい豊富です。

また、研修は指導医と共に実際の

診療を行う中で行われ、日常の経験が直ちに研修医の血となり肉となるような実践的な指導が受けられます。

2 教育熱心な指導医

臨床経験の乏しい研修医が指導を受けるためには、経験豊富な臨床医が必要です。また、忙しい日常の診療の中で研修医の面倒をみることはかなりの努力が必要で、教育がおさなりになってしまいます。

中部病院では指導医が九十名ほどいますが、その八十％は中部病院臨床研修制度の卒業生です。自分達の後輩は自ら育てるという気風があり、熱心な指導風景が、どの病棟でも普通に見られます。

3 屋根瓦方式

長い臨床研修の中で培われてきた「教えることは学ぶこと」が結実したものが、「屋根瓦方式」です。屋根瓦が上下に重なっているように、一年上の研修医が下の研修医を教えるものです。研修医の一年の経験の差は予想した以上に大きく、研修医



外国から一流の講師を年間15名ほど招いて講演会や実地指導を受ける。

でも指導者となれますし、下の研修医も相談しやすく頼りにしています。

4 外国から一流の講師を招へい

三十七年前から、外国から講師を招き、研修医や指導医を教育することが行われています。

年間十五名程度の一流の講師を招き、講義や病棟での診療上のアドバイスを受けることで、常に世界のスタンダードに遅れないような努力をしています。

5 ハワイ大学との連携

外国からの講師の招へいや中部病院研修医がハワイ大学関連病院で研修できるのも、また、ハワイとのテレビ会議方式の勉強会ができるのもハワイ大学と連携しているからです。このように、常に国内外から刺激を受け研修制度は進化しています。



ハワイとテレビ会議式の講演会を定期的開催している。

充実した臨床研修は 離島県沖縄の医師確保に貢献

このように規模が大きく、充実した教育にはやはりお金がかかります。なぜ、わざわざ沖縄県でこのような臨床研修制度を行わないといけないのでしょうか。

それには、内地から遠く隔たった離島県である沖縄、その離島県がさ

らに多くの離島を抱えているという状況があります。

沖縄と同じように都市部から離れた北海道や東北では、医学部を卒業あるいは臨床研修終了を終えた医師が都会に流れるため、医師確保の問題が各自自治体の深刻な悩みとなっています。

しかしながら、中部病院の臨床研修と民間の臨床研修プログラム“むりぶし”に人が集中した沖縄には、逆に医師が流れこんでいます。

さらに、中部病院臨床研修終了者は六百五十二名になりますが、実にその七十五％が沖縄に定着しています。

もともと希望者の少ない産婦人科や脳外科の医師不足で問題にはなっていますが、このような臨床研修制度があれば、内科や外科も医師の確保に難渋したでしょう。このように、充実した臨床研修は医師の確保に役立っているのです。

日進月歩の医学の世界で、医師は常に県民の要望に応える



指導医のための教育技法講習会。本土から専門家を招いての勉強会

ため研鑽を積まなければなりません。しかし、人というものは誰しも歳を重ねていくうちにその意欲は減退していくものです。

そのような中、若い研修医が毎年のごとく、医療現場に登場してくると、指導医ももうかしておられませんが、指導医も学習をさらに深めねばならない状況が必然的に出てくるため、医療も質が高まり、県民もよい医療を受けることが出来るのです。一流の病院はよい研修制度を持っていると言われる所以です。

これからの臨床研修

本年度から新たに県立北部病院、那覇病院でも臨床研修が始まりました。

近い将来にはこれまで中部病院で培ってきたノウハウを全県立病院に拡大し、各病院の特徴を寄せ集め、沖縄県らしい特色を前面に出した県立病院群臨床研修プログラム（ニライカナイ）の実現に向け検討を進めています。

研修医に暖かい声援を

現在、県立北部、中部、那覇病院では、多数の研修医が研修中です。皆さんの周囲のどの職場にも、見習い、新人、半人前の方がいるはず

です。いろいろ経験を重ね一人前になっしていきます。

研修医も、みなさんの診察・治療に参加することによって一人前の医師になっていきます。どうぞ彼らにも暖かい声援をお願いしたいと思います。

いろいろな苦痛や症状で来られる県民の皆様は「研修医で大丈夫だろうか」と思われるのは当然ですが、研修医の後ろには常に指導医がおりますので、安心して受診してください。

「全国一の研修病院が沖縄にある」と全国から研修医が集まり、優秀で意欲ある若者が採用されましたが、今年採用の三十四名中、本県出身者は五名です。すばらしい研修制度を持ちながら、本県出身者が少ないのは残念なことです。さらに、多くの県出身者の応募をお願いしたいと思っています。

希望者が多いだけに厳しい採用試験です。現在医学部に在籍中の学生にも普段からしっかり勉強し、採用試験を突破するような力をつけてほしいと思います。

●お問い合わせ

県立中部病院管理課
TEL..098-973-4111
FAX..098-973-2703